

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0009号  
護國青年會議 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成17年1月25日

## 断固反対—在日外国人参政権付与法案



日の丸を踏みつける支那人親子

支那人と朝鮮人の正体  
アナタはこんな奴等を  
許すことができませんか



日の丸を燃やす朝鮮人

**公明党の危険な動き** 21日に召集された通常国会で『永住外国人参政権付与法案』を成立させようとする動きが、公明党を中心に活発になっている。公明党は、昨年11月の臨時国会でも、この法案を提出したが、自民党の抵抗により採択に至らず、継続審議となったことがある。公明党がこの法案に固執する裏には党利党略が見え隠れしている。また開催中の国会では『防衛省昇格法案』が審議入りすることとなっているが、公明党は、この法案には執拗に反対したが、一転して審議入りに賛成したのは、『在日外国人参政権付与法案』がリンクしているのではないかと思う。『参政権付与法案』が採択に至れば、自民党から造反議員がでることも予想され、可否は紙一重となり、この危険な法案が成立する恐れが生ずる。日本を愛する国会議員の良識に期待するばかりである。

**公明党の党利党略** 在日朝鮮人の参政権問題が活発に論議されるようになったのは、金大中が大統領時代に創価学会の池田大作と会談し、在日朝鮮人への参政権付与を求め、その見返りとして韓国に於ける“創価学会の布教禁止措置を解く”との合意ができて以来とされている。その後、韓国側から「韓国に永住する日本人に参政権を与えるから、在日韓国人にも与えてくれ」との都合のいい“相互主義”が提案された。しかし、日本に永住する韓国人は50万人以上であり、在日韓国人は数百人です。これでは“相互主義”など成り立つ訳がありません。日本には“相互主義”を唱えておきながら、韓国側は、平成14年2月、「外国人に参政権を与えるのは憲法に違反する」との最高裁の判断の下、国会では満場一致で在日外国人の参政権を認めず“相互主義”を自ら破棄したのである。つまり創価学会と公明党は、韓国での布教活動と引き換えに在日朝鮮人に参政権を与えようとしているのである。党勢の拡大が儘ならない公明党にとって、在日朝鮮人の一票は、喉から手が出るほど魅力だろうが、そんなことでは党の利益のために、朝鮮人に阿る、国益を顧みないカルト政党であると言っても過言ではない。

**「亡国法案」を廃案に...** 在日朝鮮人に選挙権を与えるということは憂慮すべき問題であり、国家の主権を脅かす危険な行為であると言える。上の写真にあるように“日本人の心である日の丸”を踏みつけ、燃やすような国を祖国とする在日朝鮮人が、選挙権を行使して、国と地方の連携と相互協力を阻害すれば、日本の安全が脅かされることとなる。そもそも国政は、その国の国民が参加して決定すべきことで、地方とはいえ在日朝鮮人が参政権を得れば、今以上に内政干渉があからさまとなり、最終的には国を乗っ取られる恐れが生じてくる。国家主権の中でも重要な意味合いを持つ参政権は、日本国民にのみ与えられた権利であり、それを在日朝鮮人に付与するということは、憲法違反に直結する由々しき行為で断固として反対する。

日本が存亡の危機に直面した時、在日朝鮮人は帰化人も含めて、先を競って母国へ逃げ帰ることだろう。しかし“九段の御英霊”のDNAを受け継ぐ私たち日本人は、この身を賭けて国を護ることを厭わない。日本国と運命を共にする覚悟のない在日朝鮮人に国家・国民の命運を決定する参政権を断じて与えてはならない。私たちにできることは、些末なことかも知れないが、声に出すことにより、やがてはその声が大きくなうねりとなり“亡国法案”を廃案に追い込むこととなるであろう。

編集人/戸出蒼流